

【目次】

1. 企画展「総同盟・産別会議から新産別・総評へ」がオープン、7月6日！
2. 友愛会創立を記念する会（8月1日）が中止に、代わりに関係者による記念の集いが！
3. 連載「日本労働会館物語」第79回—ジョサイア・コンドル没後100年—！

1. 企画展「総同盟・産別会議から新産別・総評へ」がオープン、7月6日！

総同盟・産別会議から新産別・総評へ —1946～1950年の日本労働運動—



友愛労働歴史館は7月6日（月）から新しい企画展「総同盟・産別会議から新産別・総評へ—1946～1950年の労働運動—」（2020.7.6～12.8）をオープンしました。

本企画展は総同盟解散70年、総評結成70年を記念したもので、総同盟・産別会議の結成から、新中央労働団体の新産別・総評が結成されるまでの5年間（1946～1950）の日本労働運動

について、産別会議民主化運動と総評の結成を中心に、国際労働運動（国際自由労連 ICFTU、現国際労働組合総連合 ITUC）へも言及しつつ紹介しています。

第1部 戦後労働運動と総同盟・産別会議の結成 —1946年8月1日・総同盟、8月19日・産別会議—

総同盟（日本労働組合総同盟）50万人の結成 1946（昭和21）年8月1日

産別会議（日本産別労働組合会議）103万人の結成 1946年8月19日



第1部「戦後労働運動と総同盟・産別会議の結成—1946.8.1、1947.8.19—」は、1946（昭和21）年の総同盟と産別会議の結成を中心に解説しています。

1945（昭和20）年の敗戦と戦後の民主化政策、労働運動の解放の中で1946年8月、労働組合主義を掲げた総同盟が再建されます。それは戦前の友愛会・総同盟の再スタートでした。同月に

階級的組合主義を掲げた産別会議も設立され、日本の労働運動は分裂スタートします。

第2部 産別会議民主化運動と総同盟の動き —1947～1950年の労働運動—



第2部「産別会議民主化運動と総同盟の動き—1947年～1950年」は、産別会議民主化運動を中心に、総同盟や世界の労働運動に言及しつつ紹介しています。戦後日本の社会的混乱と経済的困窮の中、共産党の影響下にあった産別会議が労働運動を主導します。しかし、2.1ゼネストの失敗を契機に産別会議に民主化運動が起きます。それは共産党の組合支配からの脱却をめざしたもので、その先導者は主として共産主義者でした。

第3部 新産別・総評の結成と国際労働運動 —1949年～1950年の労働運動—



第3部「新産別・総評の結成と国際労働運動—1949年～1950年」は、新産別や総評の結成について国際労働運動に言及しつつ解説しています。1949年12月、産別民主化運動の果実として新産別が結成されます。さらに翌50年7月、産別民主化グループ（単産）と総同盟などにより新たな単産連合（総評）が結成されます。それは民主的労働運動に立脚し、国際労働運動（国際自由

労連 ICFTU）とともに歩むナショナル・センターをめざすスタートでした。

2. 友愛会創立を記念する会（8月1日）が中止に、代わりに関係者により記念の集いが！

日本労働運動の出発点である友愛会（1912. 8. 1、鈴木文治により創立）の意義を顕彰するための会合が毎年8月1日、友愛会創立を記念する会（高木剛会長）の主催、連合の後援で開催されてきました。しかし、108回目の今年は新型コロナウイルスへの対応のため中止となりました。

このため日本労働会館と友愛会館の関係者により8月1日（土）昼、「友愛会創立を記念する集い」が開かれることになりました。これは1965年以来の友愛会顕彰活動が途絶えることを憂いたもので、当日は高木剛会長のメッセージの確認、物故者への黙祷などが予定されています。

3. 連載「日本労働会館物語」第79回—ジョサイア・コンドル没後100年—！



今年には英国の建築家で「日本近代建築の父」と呼ばれたジョサイア・コンドル（1852. 9. 28～1920. 6. 21）の没後100年で、彼のお墓は東京・護国寺にあります。

コンドルは明治政府に招かれた、いわゆる「お雇い外国人」。工部大学校（現・東京大学工学部）の建築学教授として来日し、鹿鳴館や上野の国立博物館など政府関連の建物を数多く設計しました。また、東京帝大退職後は岩崎邸など主として三菱グループの建物を数多く手がけました。その関係か東京・世田谷の静嘉堂文庫美術館の庭にある岩崎家廟もコンドルが設計しています。



ジョサイア・コンドルは1894（明治27）年には友愛会館の前身、ユニテリアン教会・惟一館の建設を手がけていますが、この年に彼は三菱一号館美術館や神田青年館（東京YMCA会館）なども設計しています。

惟一館は和洋折衷の建物で、コンドルの建築の中では唯一、「妙ちくりんな作品」（某建築史家の指摘）とされてきました。しかし、当歴史館が2014年に開催した企画展「ジョサイア・コンドルと惟一館、山口文象と青雲荘」（2014. 3. 10～8. 30）で、「妙ちくりん」とされた惟一館のデザインの秘密が明らかになりました。

本企画展の折、ユニテリアン研究の第一人者・土屋博政慶大名誉教授より「惟一館のデザインはクレイ・マッコレーイ牧師がスケッチし、それをもとにコンドルが設計した」とのご指摘をいただいたからです。ハーバード大学が所蔵するユニテリアン資料の中にマッコレーイ牧師の手紙があり、その一つに「自分がデザインした」との記述が残されていたとのこと。

コンドル夫妻は1920（大正9）年6月に相次いで死去しています。妻くめはコンドルの看病の過労で6月10日に63歳で死去し、コンドル本人は脳軟化症で6月21日に死去した、とされています。享年67歳。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairedorekishikan@rodokaikan.org

HP <http://www.yuairedorekishikan.com>

惟一館から125年、友愛会から107年
